

RETAILER ACADEMY NEWS

Apr 2019 | Bentley Motors Japan



新型フライングスパーの ティザー動画・画像を公開

ベントレー モーターズはこのほど、プレスリリースとグローバルのソーシャルメディアで、新型フライングスパーのティザー動画と画像を初めて公開しました。

モノクロのイラストにはベントレー伝統のモチーフであるパワーラインやハウンチが描かれており、ひと目見てベントレーとわかるスタイリングになることが予想されます。また、3代目コン

チネンタルGTの特徴の1つでもあった、ボディサイド下部のクロームのラインの位置にも同様のラインが描かれていることから、共通するモチーフが採用される可能性が高そうです。いずれにしても、2代目までのフライングスパーのスタイリングを踏襲しつつ、新しいモチーフが散りばめられる外観となりそうです。

動画と画像では、ボンネット上に現れるフライングBマスコットの様子が映し出されています。2代目のフライングスパーにはオプションでも設定のなかったフライングBマスコットですが、現在のベントレーのスタイリングの原点ともなっているR-Type コンチネンタルやS2 コンチネンタル フライングスパーといった名車に装着されていたものです。動画から推測すると、歩行者衝突安全基準を満たすため格納式のフライングBマスコットを選択できるようになる可能性が高くなっています。

ティザー動画と画像が公開され、東京・大阪では2Dプレビューを実施しましたが、リテーラーの皆様には、新型フライングスパーの見込み客を洗い出す作業を進めていただくことを推奨します。新型フラ

イグスパーに関する今後の動きについては、あらためてベントレー モーターズ ジャパンからご案内するとともに、リテーラー アカデミー ニュースでも解説していく予定です。



ポルシェからついに SUVクーペが登場

Porsche Cayenne Coupé

2019年3月22日に、ポルシェは同社のSUVモデル「カイエン」のモデルバリエーションとして、新たにポルシェ・カイエン クーペを発表しました。4月16日より開催された上海モーターショー 2019では実車を初公開。スポーツSUVの新たな選択肢として注目されます。



BMW X6で始まったSUVクーペというカテゴリー

SUVクーペは、BMWが2008年に発表したBMW X6をきっかけに誕生したカテゴリーです。ラグジュアリー SUVのBMW X5をベースに生み出されたBMW X6は、主にボディのルーフラインをクーペ風に仕立てることで、独自の個性を与えたモデル。SUVとクーペのクロスオーバーとなる斬新なスタイリングが大きな話題を呼びました。BMW X6に対抗して、ダイムラーも同社のメルセデス・ベンツGLEをベースにしたGLE クーペを発表。その後SUVクーペはコンパクトカー・セグメントにも波及し、ひとつのカテゴリーとして確立されました。

名実ともにクーペと呼ぶにふさわしいエクステリア



カイエン クーペのエクステリアは、ベースとなったカイエンとは明確に異なるデザインが与えられています。競合するBMW X6とメルセデス・ベンツ GLE クーペは、どっしりとしたボディ下半分とは不釣り合いな低いルーフラインが独自の個性を発揮しています。それに対して、カイエン クーペはポルシェのスポーティなイメージにふさわしい、一体感のあるクーペスタイリングを実現しています。



カイエンより20mm低いルーフラインは、固定式のルーフスポイラーが特徴的なシルエットを引き立たせます。また、リアドアとフェンダーを再設計することで、リアレッドは18mmワイド化。バンパーに統合されたナンバープレート位置と併せて、ワイド&ローのダイナミックな印象を強調しています。



特徴的な装備のひとつが、ポルシェ 911などでお馴染みのアダプティブリアスポイラー。走行速度が90km/h以上になるとリアパネルが135mm持ち上がり、空力性能を最適化させます。

スポーティな魅力を高める豊富なオプション装備



カイエン クーペには固定式のパノラマガラスルーフが標準装備され、開放感のあるインテリアを演出しています。また、スポーツカーらしさを求めるユーザーには、オプションでカーボンルーフを選択することもできます。ポルシェ 911 GT3 RSのように中央に凹みのあるデザインが特徴的なカーボンルーフは、3種類あるライトウェイトスポーツパッケージのひとつとして用意されるもの。このパッケージには、22インチのGTデザインホイール、シート中央部にクラシックな千鳥格子柄のファブリックをあしらったシート、さらにカーボンファイバーとアルカンターラによるスポーツデザインパッケージなどが用意され、内外装をスポーティに仕立てることができます。

クーペスタイリングながら十分な実用性を確保



インテリアは、大人4人が快適に移動できる空間に仕上げられています。フロントには8ウェイスポーツシートが用意され、リアには左右独立式シートが備わります。低いルーフラインで気になる後席の居住性は、リアシートをカイエンより30mm低く設定することで十分なヘッドクリアランスを確保しています。

ラゲッジ容量は、カイエンの645Lに対して625L（カイエン ターボクーペは600L）を確保。リアシートをたたんだ状態では、カイエンの1,710Lに対して、1,540L（カイエン ターボクーペは1,510L）となり、十分な実用性を備えています。

2種類のラインアップを用意

現在用意されているラインアップは、3.0L 直6ターボエンジンで最高出力340 ps、最大トルク450 Nmを発揮する「カイエン クーペ」と、4.0L V8ツインターボエンジンで最高出力550 ps、最大トルク770 Nmを発揮する「カイエン ターボクーペ」の2種類。カイエン ターボクーペの動力性能は、0-100km/h加速3.9秒、最高速度286km/hと発表されています。

SUVクーペは新たな需要を掘り起こせるか？

今後新型を登場させる予定のBMW X6とメルセデス・ベンツ GLEクーペに対し、スポーティかつスタイリッシュなデザインで、強烈な先制パンチを浴びせる格好となったポルシェ・カイエン クーペ。後席やラゲッジルームの広さを特に必要としないSUVユーザーにとって、カイエン クーペのようなSUVクーペのスポーツカーは理想的な選択肢になる可能性があります。これまでニッチな存在だったラグジュアリー SUVクーペ市場にどのような変化が起こるのか、とても興味深いものがあります。

カイエン クーペ	11,150,000円
カイエン ターボ クーペ	19,740,000円

COMPETITOR INFORMATION



ニューモデル BMW 8シリーズ カブリオレ

発表・発売日	2019年2月19日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none"> 50km/h以下であれば走行中に操作可能なソフトトップ。約15秒でフルオープンに 新開発の4.4L V8エンジンは最高出力530 ps、最大トルク750 Nmを発揮 最先端の運転支援システム、BMWコネクテッド・ドライブなどを搭載
車両価格 (税込)	BMW M850i xDrive Cabriolet : 18,380,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル BMW X5

発表・発売日	2019年2月27日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none"> ボディサイズを拡大させながら、軽量化とさらなる高剛性を実現 最高出力265 ps、最大トルク620 Nmを発揮する3.0L 直6ディーゼル・エンジンを搭載 3眼カメラによる最先端の運転支援システム、音声会話による操作システムを標準装備
車両価格 (税込)	BMW X5 xDrive35d Standard : 9,200,000円 BMW X5 xDrive35d M Sport : 9,990,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル アウディ A6 セダン/A6 アバント

発表・発売日	2018年3月20日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none"> 3.0L V6 TFSIエンジンに、48V駆動のマイルドハイブリッド(MHEV)を搭載 ダイナミック オールステアリングホイール(4輪操舵)により、俊敏さと小回り性能を両立 直感的な操作とカスタマイズが可能なMMIタッチレスポンスを採用
車両価格 (税込)	アウディ A6 Sedan 55 TFSI quattro S line : 10,060,000円 アウディ A6 Sedan 55 TFSI quattro debut package : 9,200,000円 アウディ A6 Avant 55 TFSI quattro S line : 10,410,000円 アウディ A6 Avant 55 TFSI quattro debut package : 9,550,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル メルセデスAMG GT 4ドア クーペ

発表・発売日	2019年2月14日 注文受付開始
概要	<ul style="list-style-type: none"> メルセデスAMG社の独自開発による4ドア・スポーツカー 電気モーター/48V電気システムを搭載する3.0L 直6エンジンと、4.0L V8直噴ツインターボエンジンを用意 トップモデルの性能は、0-100km/h加速 3.2秒、最高速度 315km/h
車両価格 (税込)	メルセデスAMG GT 43 4MATIC+ : 11,760,000円 メルセデスAMG GT 53 4MATIC+ : 15,930,000円 メルセデスAMG GT 63 S 4MATIC+ : 23,530,000円 メルセデスAMG GT 63 S 4MATIC+ Edition 1 : 24,770,000円
デリバリー開始時期	2019年5月以降



一部改良 メルセデスAMG GT

発表・発売日	2019年2月14日 予約受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな表示が可能な12.3インチ・コックピットディスプレイを採用 新デザインのLEDハイパフォーマンスヘッドライトを採用 レースカーの技術を投入した20台限定のメルセデスAMG GT R PROも導入
車両価格 (税込)	主なラインアップ メルセデスAMG GT : 16,450,000円 メルセデスAMG GT S ロードスター : 21,370,000円 メルセデスAMG GT C ロードスター : 23,090,000円 メルセデスAMG GT R : 23,820,000円 メルセデスAMG GT R PRO : 29,000,000円
デリバリー開始時期	2019年8月以降



ニューモデル ランボルギーニ・ウラカンEVO

発表・発売日	2019年3月8日 発表
概要	<ul style="list-style-type: none"> エアロダイナミクスの改良により、ダウンフォースと空力効率を大幅に向上 ウラカン ベルフォルマンテと同じ5.2L V10自然吸気エンジンを搭載 最高出力640 ps、最大トルク600 Nmを発揮。0-100km/h加速は2.9秒、最高速度は325km/h以上
車両価格 (税込)	ランボルギーニ ウラカンEVO : 32,230,736円
デリバリー開始時期	—

ACADEMY

ソーシャルメディア・マスタークラス研修会を開催

ベントレー モーターズ ジャパンは3月28日、六本木ヒルズクラブで各拠点のSNS担当者らを対象とした「ソーシャルメディア・マスタークラス」の研修を開催しました。

午前の部では、ベントレー モーターズ ジャパンのソーシャルメディアの運用を行うトランス・コスモス社の杉山氏から、現在のソーシャルメディアの概要について解説していただきました。SNSが現在、テレビや新聞、雑誌に代わる巨大な力を持ったメディアとなっていることを全員で確認。使い方を誤ると大きな影響があることへの理解も深めました。

午後の分では、投稿に関する具体的な注意事項をベントレー モーターズ ジャパンの佐藤が説明しました。写真の使い方やタグの貼り付け方、コメントの入れ方など、ベントレー モーターズが推奨するSNSの使い方については、参加者の皆様にPDFで配布いたしました。出席したご担当者だけでなく、拠点の皆様と共有してご確認いただき、SNSの運用に役立ててください。

SNSに関する研修は初めての試みでしたが、参加者の皆様からは数多くの質問が出るなど、高い関心があることをあらためて確認しました。また、現場では多くの担当者がSNSの運用に頭を悩ませていることもわかりました。ベントレー モーターズ ジャパンも公式Facebookを始めてまだ1年強ですが、日々変わっていく新しいコミュニケーション方法を模索しています。不明な点がございましたら、ぜひお気軽にご連絡ください。最善の方法を、皆様とともに考えていきたいと思います。



コンチネンタルGTの 先進安全装備

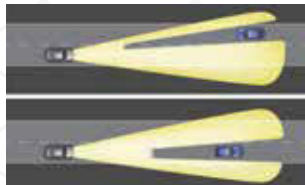
電動自動車と並んで大きな注目を集めてきたのが、さまざまなセンサーなどからの情報をもとにドライバーを支援する技術です。安全性と快適性を向上させるものとして、今ではどのメーカーでも標準装備または推奨オプションとして設定されています。

コンチネンタルGTは、最大で12個の超音波センサーと最大6個のカメラ、さらに短距離レーダーや長距離レーダーを用いて、自車の周囲の状況を分析し、適切に反応します。今回は、あらためてコンチネンタルGTに装備されている先進安全装備について解説します。商談の際には、これらの安全装備に関して機能を説明いただくとともに、場合によっては機能しないケースがあることも必ずご説明ください。

標準装備

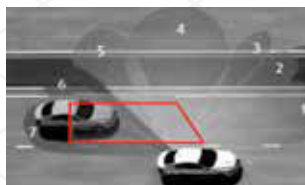
ハイビームアシスト

走行状況に応じ、ヘッドライトのロービームとハイビームを自動的に切り替えます。対向車や前走車を眩惑することなく、夜間の視界確保をアシストします。



ブラインドスポットウォーニング

10～250km/hで走行中に、自車後方の死角にいる車両を検知し、衝突の可能性があるかどうかを予測する機能です。ドアミラーにあるライトが点滅し、死角にいる車両の存在をドライバーに知らせます。



エグジットウォーニング

自車の後方から接近してくる車両などを検知し、衝突する危険性があることを降車前の乗員に警告する機能です。



シティスペシフィケーション

シティセーフガード

歩行者を検出してその進路を予測し、自車の予測位置と比較。衝突の可能性がある場合はドライバーに警告を発し、停止するためにブレーキをかける機能です。



リア・クロッシング・トラフィック・ウォーニング

駐車スペースから後退で発進する際に、後方を横切るクルマや自転車がいないかレーダーで検出する機能です。システムが「衝突の可能性あり」と判断した場合は、ドライバーに警告を発します。



トップビューカメラ

4台のカメラからの画像をもとに、車両周囲の状況がわかるようにバーチャルの俯瞰画像を作り、ローテーションディスプレイに表示。すぐ近くにある障害物も表示します。



パークアシスト

適切な駐車スペースを検出し、理想的なステアリング操作を算出。駐車時のステアリング操作を自動操縦でサポートします。



ツーリングスペシフィケーション

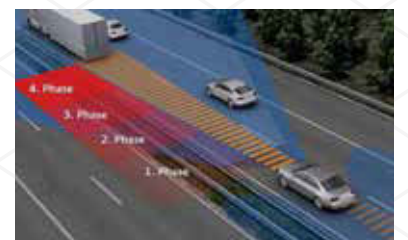
アダプティブクルーズコントロール（ストップ＆ゴー、プレディレクティブACC、トラフィックアシスト付）

静止状態から250km/hまでの速度で走行中に、先行車との車間距離を一定に保ち、自動で加減速を行います。プレディレクティブACCは、ナビゲーションシステムとセンサー、カメラから送られるデータに基づき、次のコーナーや町への入り口、制限速度が変わることなどを予測。状況に応じて車速を増減することで快適性と燃費向上に貢献します。渋滞時は、システムが車列を感知し、車線が見えなくても車線から逸脱しないようにステアリングに修正を加えます。



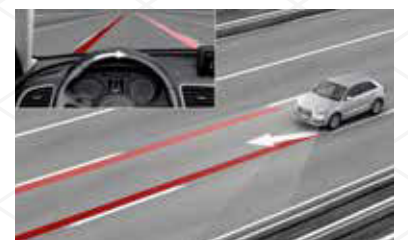
Bentleyセーフガードプラス

道路前方を監視し、「正面衝突の可能性あり」と判断するとドライバーに警告を発します。自動的にブレーキをかけることで低速走行時は衝突を回避し、高速走行時は衝突被害の軽減と重大事故を防止します。



レーンアシスト

カメラで道路前方を監視し、車線から逸脱しないようにステアリングに修正を加えてドライバーをサポートする機能です。



ナイトビジョン

赤外線カメラで捉えた道路前方の画像をメーターパネル中央のドライバーインフォメーションパネルに表示し、ヘッドライトが届かない範囲の視界を確保します。障害物に接近すると、歩行者か自転車か、大型の動物なのかを特定しつつハイライト表示し、それらが進路上にいる場合はドライバーに警告を発します。

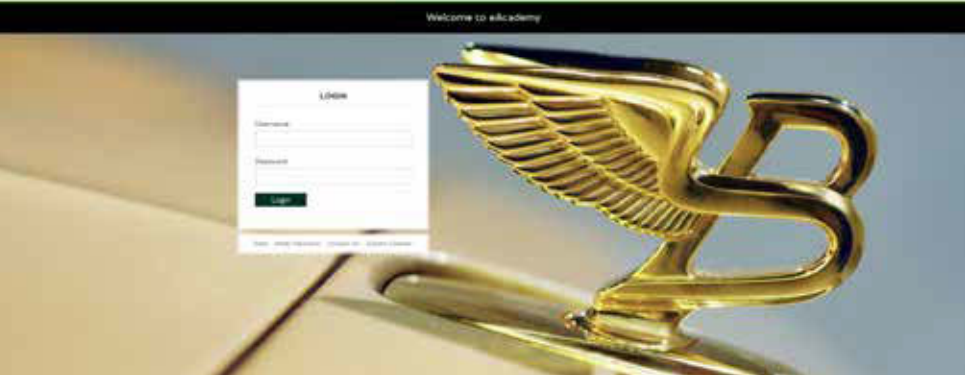


ヘッドアップディスプレイ

各種警告や車両に関する情報（速度、ナビの案内など）を、フロントガラスに投影してドライバーの視線の先に映し出します。



eAcademyのウェブサイトがリニューアル

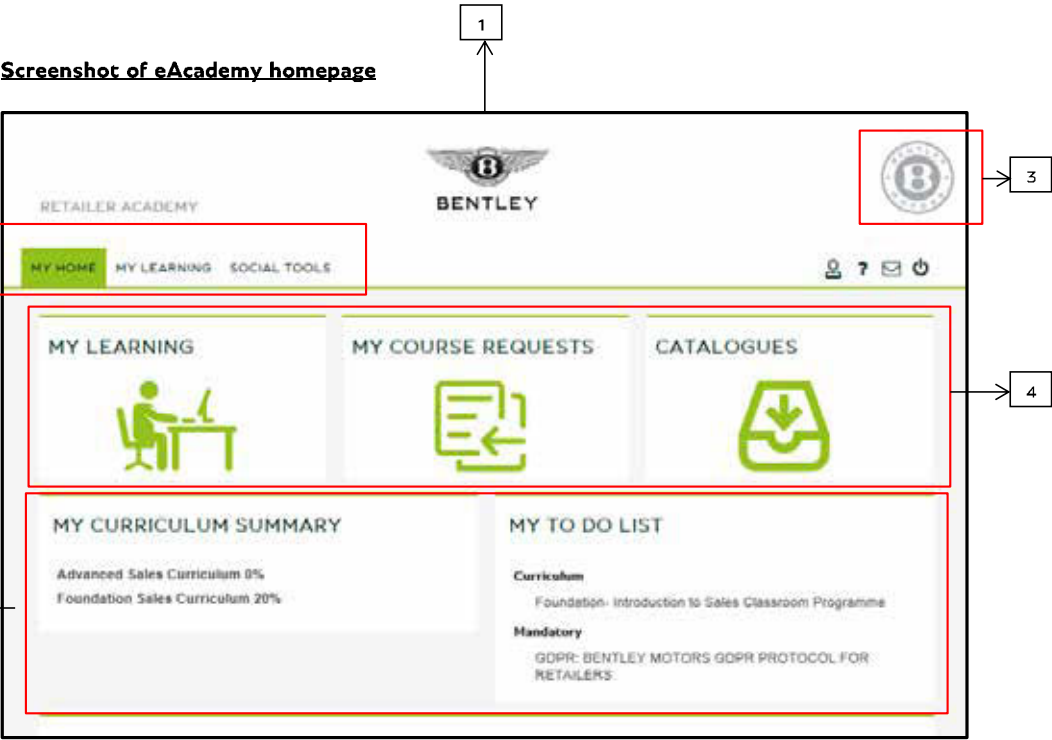


今年4月から、eAcademyのウェブサイトがリニューアルしました。
リニューアルに伴う変更点は、以下の5つです。

- 1 **新しいデザイン**
トップページのデザインが新しくなりました。
- 2 **ナビゲーションバーのシンプル化**
ナビゲーションバーの項目数が減り、シンプルになりました。
- 3 **エクスクルーシブアイコンの追加**
ベントレー エクスクルーシブ スタッフに関しては、このようなアイコンが表示されます。
- 4 **ショートカットアイコン**
よく使われる項目に関しては、ショートカットアイコンが追加されます。
アイコンは「マイラーニング」「マイコースリクエスト」「カタログ」です。
- 5 **新機能**
マネージャーがスタッフの受講状況を確認することがデキます。

まだうまく作動しない部分もあるかと思いますが、まずは各自リニューアルされた画面をご確認くださいませよう、お願いいたします。

また、「再受講」の方法ですが、「マイラーニング」をクリックしていただくと、これまで受講いただいた全てのコースのリストが表示されます。再受講したいコースの左側にある歯車マークをクリックすると、「開始」ボタンがあります。「開始」ボタンをクリックしていただくと、そのコースを再受講することができます。過去の問題にさかのぼって学習したい方は、この方法をご利用ください。（一部のコースでは、システムのエラーで受講いただけないものもございます）



COLLECTION

コンチネンタルGT3のモンツァ仕様が1:43スケールモデルカーに

ベントレー コレクションにこのほど、コンチネンタルGT3レースカーの1:43スケールモデルカーが加わりました。2018年のブランパンGTシリーズに出場したベントレー・チームMスポーツの7号車（モンツァ仕様）で、空力パーツからスポンサーロゴまで忠実に再現しています。台座にはベントレーのブランドロゴのほか、車名と出場したレースが記されています。商品はベントレーのギフトボックスに入っており、希望小売価格は¥11,200です。モータースポーツ好きのお客様などに、ぜひお勧めください。



CENTENARY

ロンドンのオークションニアがベントレーの100周年記念の展覧会を開催

英国・ロンドンで美術品やアンティーク、自動車、ジュエリーなどのオークションを手がけるBonhamsがこのほど、ベントレーの100周年を記念した「Age of Endeavour」展を開催しました。同展では、ベントレーの100年の歴史の中で欠かせないレース活動に関する写真やポスター、トロフィー、ブルックランズやル・マンでの伝説的なレースを代表するアイテムが展示されました。
Bonhamsのモータリング部門のディレクターを務めるショルト・ギルバートソン氏は、「ベントレーは英国が生んだ最も素晴らしい作品の1つ。今回はBonhamsが画期的な展覧会を主催する特権を得ることができました。どの展示品も、世界で最も愛され、驚異的な成功を収めているブランドの記念すべきコレクションです」などとコメントしました。



新燃費表示WLTCモードとは？

日本では昨年の10月より、新型車に関する燃費性能に「WLTCモード」という新しい表示が使われることになりました。「WLTCモード」とは、「JC08モード」や欧州で使われていた「NEDC」とどのように異なるのか。また、世界の燃費表示の方法などを説明します。



燃費表示を世界共通で使えるものに

「WLTCモード」とは、「Worldwide-harmonized Light vehicles Test Cycle」の略。「世界の調和（Worldwide-harmonized）」とあるように、世界全体で使えることを目的に国連で定められた試験方法です。これまで燃費性能の表示は、日本の「JC08モード」、欧州の「NEDC」、アメリカの「EPA」のように、国別によって異なっていました。そのため自動車メーカーは販売する地域別に燃費性能を測定していましたが、その負担は非常に大きいものとなっていました。その負担を減らし、世界各国の認証の相互承認を迅速化するため、世界統一の試験方法として生まれたのが「WLTCモード」です。



■ WLTCを定めた国連の自動車基準調和世界フォーラム（WP29）。

欧州でCO2排出量が燃費表示に使われる理由

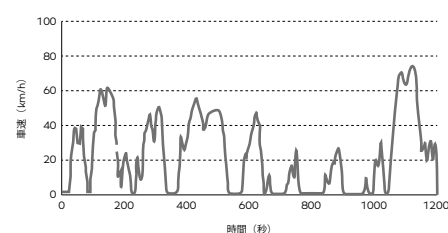
欧州では燃費性能を二酸化炭素（CO2）の排出量として表示します。これは欧州ではガソリン・エンジン車と同じくらいディーゼル・エンジン車が普及しているのが理由です。ガソリンとディーゼル・エンジンの燃料となる軽油では、燃料内に含まれる二酸化炭素量が異なります。そのため走行距離あたりの燃料の量では、排出される二酸化炭素の量を比較することができません。そこで、走行距離あたりの二酸化炭素（CO2）を表示することで、環境に与えるダメージをガソリン車とディーゼル車で比較することが可能となります。

各国の燃費表示の違いと目安

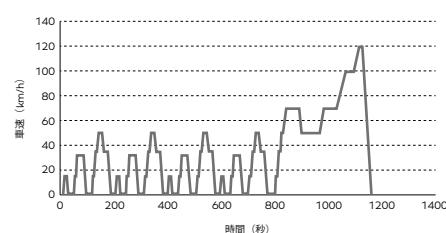
燃費性能の表示の方法も世界各国で異なります。日本は1リッターあたり走行できることを意味する「×km／リッター」が使われます。アメリカは1ガロン（約3.8リッター）あたり走れるマイル（約1.6km）で「mpg」。欧州は100km走るのに必要な燃料の量として「×リッター／100km」の表示が使われます。日本とアメリカは数字が大きい方が燃費性能に優れますが、欧州は逆に数字の少ない方が優れることになります。

$$10\text{km/リッター} = 10\text{リッター/100km} = 23.5\text{mpg}$$

$$20\text{km/リッター} = 5\text{リッター/100km} = 47\text{mpg}$$



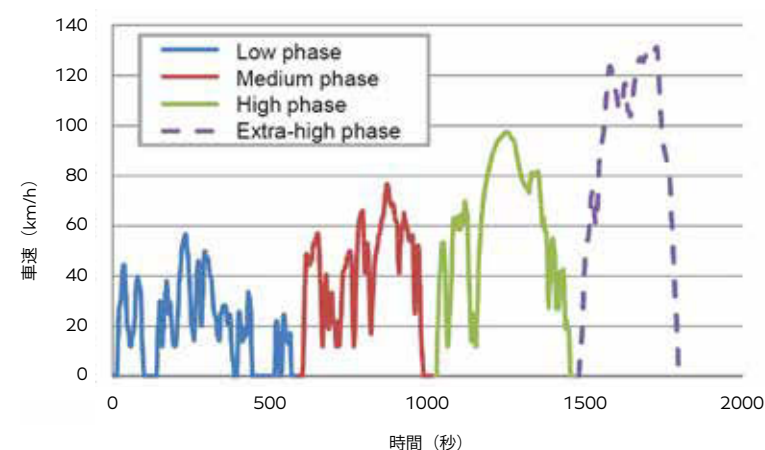
■ 日本で使われていた「JC08モード」燃費のテスト方法。



■ 欧州での燃費試験であった「NEDC」のテスト方法。

走行シーンにあわせた燃費性能を表示

「WLTCモード」の試験の特徴は、「低速・市街地（Low）」「中速・郊外（Medium）」「高速（High）」「超高速（Extra High）」の4種類の速度域で計測され、それぞれを個別に表示するところにあります。ただし、「超高速」は時速100km以上の速度域のため、国によっては除外することもあります。日本でも除外となります。そして、その結果をまとめたものを日本では「WLTCモード」と呼びます。欧州では「コンバイン（Combine）」と表示されることもあります。「WLTCモード」の試験内容は、従来の「JC08モード」や「NEDCモード」よりも厳しいものとなっています。



■ 世界共通で使うことを目的とした「WLTCモード」試験。

コンチネンタルGT W12の場合



従来の
「NEDC」
での表示

市街地： 米国 16.6mpg・欧州 17.0リッター／100km
郊外： 米国 30.4mpg・欧州 9.3リッター／100km
コンバイン： 米国 23.3mpg・欧州 12.1リッター／100km
Co2 278g／km

新しい
「WLTCモード」
での表示

市街地： 米国 12.7mpg・欧州 22.3リッター／100km
郊外： 米国 20.3mpg・欧州 13.9リッター／100km
高速： 米国 23.9mpg・欧州 11.8リッター／100km
超高速： 米国 24.1mpg・欧州 11.7リッター／100km
コンバイン： 米国 20.8mpg・欧州 13.6リッター／100km
Co2 308g／km